

協議会ニュース

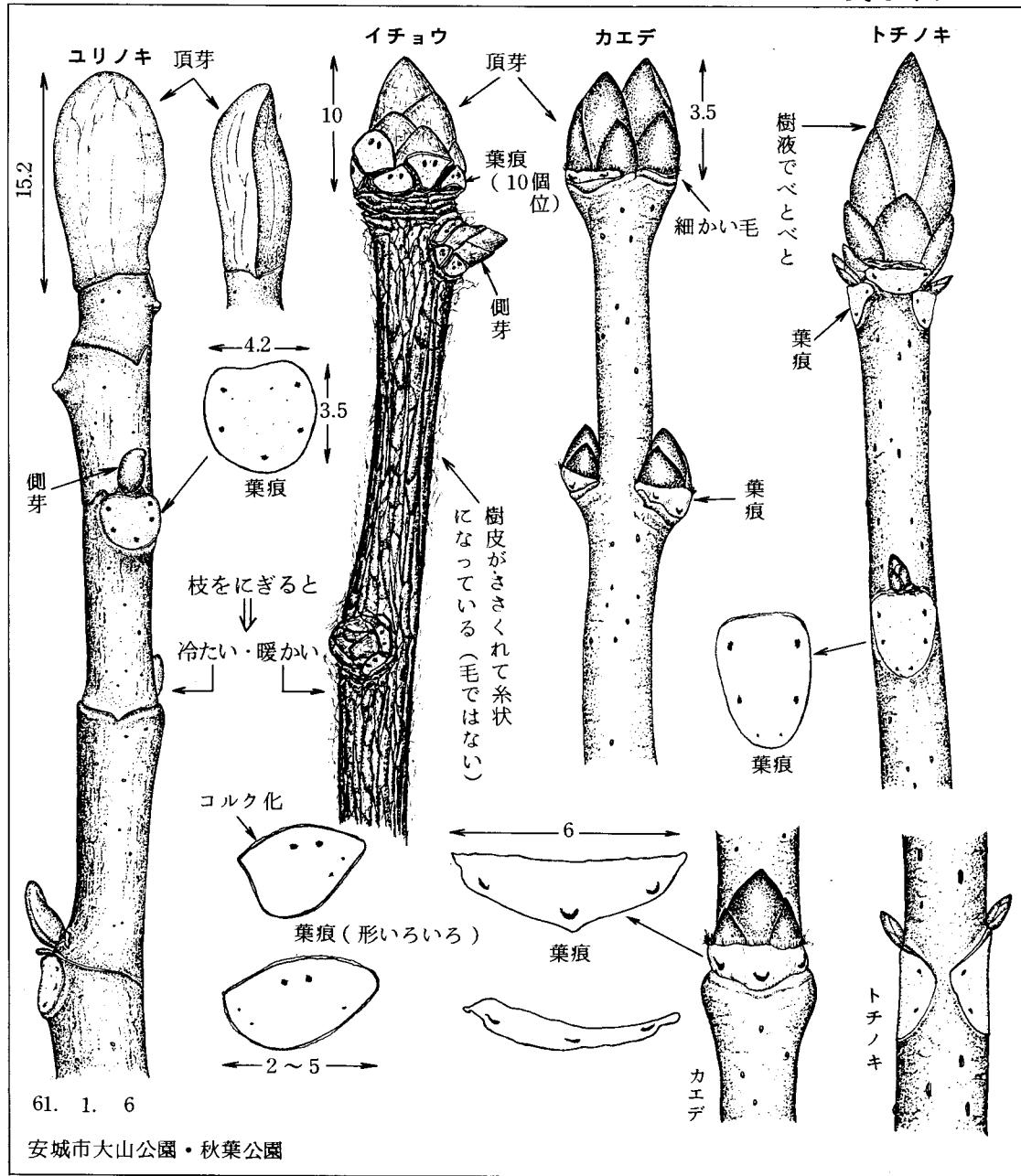
15号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

61.5

街路樹の冬芽と葉痕

長さ単位mm



解説

愛知県環境白書から

藤井敏夫（半田市）

愛知県の空気や水はきれいになったか？ 昨年12月に、愛知県が60年版環境白書を発表した。同白書によると、全体としてみれば、昭和40年代の危機的な状況は一応克服されたが、ここ数年は横ばいである。また、環境を保全する上で維持されることが望ましいレベルを示す環境基準の達成状況をみると、大気汚染では硫黄酸化物、窒素酸化物の環境基準は全地域で達成されているものの、光化学オキシダント、浮遊粒子状物質の環境基準達成地域は少ない。

また、水質汚濁では、河川の環境基準達成率（生物化学的酸素要求量を指標とした場合）が72%，海域のそれが67%となっている。

一方、騒音や振動、悪臭に関する苦情は、5319件発生しており、この件数はここ10数年ほとんど変っておらず、最近の3年間に限ってみれば、微増傾向を示している。このように、空気、水等の状況は一進一退であるが、生活排水や交通公害、廃棄物処理問題等生活に起因する公害事象が顕在化していることから、今後は、従来の産業公害を

対象とした公害規制の推進と併せて、環境に配慮した生活ルールの普及が重要であると指摘している。

従って、限りある空気、水等の環境資源を共有している県民としては、水遊びのできる川、遠望のできる澄んだ空気などを快適な生活をすぐすうえでの不可欠な環境素材として捉え、そのためには一層の環境改善が必要であるとの認識を深めるとともに、それに向けて幅広く実践していくことが必要であると考えられる。

なお、白書では、自然環境の現況についても記されている。これによれば、県内に生息する哺乳類は20科38種（うち明らかに移入種と思われるものの2科4種）である。（ツキノワグマも茶臼山付近で出没すること。）また、県内に分布する植物は、197科3,021種である。因に、鳥類は、62科346種（うち県内で繁殖するもの39科102種）両生類は、7科19種である。（なお、自然環境の現況については、「愛知県の自然環境」（昭和60年3月愛知県発行）に詳しい。）

本県における大気汚染の推移（昭和48年度～59年度）

物質名	単位	48年度	50年度	52年度	54年度	56年度	57年度	58年度	59年度
二酸化硫黄(SO ₂)	ppm	0.024	0.018	0.015	0.010	0.008	0.007	0.007	0.008
二酸化窒素(NO ₂)	ppm	0.023	0.023	0.022	0.020	0.020	0.020	0.020	0.020
一酸化炭素(CO)	ppm	2.3	1.6	1.4	1.1	1.0	1.0	1.0	0.9
光化学オキシダント(O _x)	ppm	0.027	0.023	0.029	0.020	0.019	0.018	0.020	0.022
浮遊粒子状物質(SPM)	mg/m ³	0.058	0.054	0.057	0.054	0.045	0.044	0.040	0.042

- （注）1. 各汚染物質の濃度の数値は、各測定局の年平均値の単純平均である。
2. 二酸化窒素の昭和48年度～52年度及び光化学オキシダントの昭和48年度～50年度の数値は、新測定法と比較するため換算したものである。
3. 光化学オキシダント濃度は、昼間時間帯（5時～20時）の1時間値の年平均値である。

（資料）県環境部調べ

自然観察会の進め方について

〔とき〕昭和60年12月1日

〔ところ〕名古屋市教育館

〔出席者〕木村 滋（奥三河支部） 鈴木友之（東三河支部）

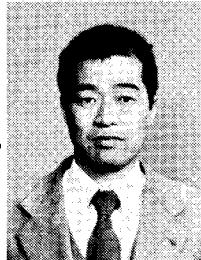
中西 正（副会長） 福富裕志（尾張支部）

水鳥富人（監事・西三河支部）

観察会の効果と反省点

私共の協議会ができて5年経ち、その間にかなりの数の自然観察会を行ったのですが、今日はそれらの経験をふまえて、協議会として今後はどのような観察会を行っていけばよいかについてお話し願いたいと思います。始めに、今迄行ってきた観察会の効果とか反省点などについて、順にお聞かせください。

水鳥 西三河支部では、去年
真福寺、今年は猿投山で観
察会をやりまして、一般の
人と山歩きをした訳ですが、
県が主催ということで安心
して参加する家族づれが多
かったという気がします。



普段、歩き慣れたような人達もまた参加してくださったけれど、新しい視点……自然保護の立場から見るという視点を参加者にある程度広めることができたと思います。自然を痛めないでのままを見るということを知っていただいた効果があると思います。

問題点は、自然保護は百年かかる……子供達にまたその子供達にという百年先を目指した指導が今一步足りなかったようです。今後は、もっと子供達に視点を置いた観察会を行う必要があると思われます。

中西 自分達の側の問題点として、最近では観察会がマンネリ化してしまって、我々自身の向上心がなくなっているという気がします。最初の

頃のような緊張感と何かしようという気持を大切にしないと、参加してくれる人達に対する効果もなくなってしまう、そんな気がします。

木村 奥三河支部では、今年

桜渕公園と県民の森でやりましたが、奥三河は範囲が広いということもあって指導員の集まりが悪くて、せいぜい5人位でした。参加者は、遠くからの人が多く、地元の人は全然来ないといってよい位です。しかし、参加者には熱心な人がいて、地質の本を持持つて来て質問する人もあり、こちらがどぎまぎする位でした。子供達も川の水生昆虫の観察では、大変喜んでなかなか川から上ってくれんかったです。

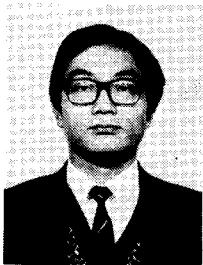


鈴木 やはり、会が始って5年たってみると、痛切に感じることはいくつかあります。木村さんが言われたように、参加者には専門的な知識を持った人と初歩的な人、子供達などがあって、参加者の意向にどのように答えたたらよいか迷うこともあります。高度なことは我々の力には及ばないと割切ってはいるのですが、子供だけが楽しめばよいとしてしまうのもどうかと思います。どんな人でもわずかでも満足してもらえるようにできたらと、いつも考えてしまうことです。

それから、当初はボランティアという気持で講習会を受けて取り組み出したと思うんですが、

行事への指導員の参加が少ないほど、もう少し自覚を持って活動して欲しい、そのためには何か良い方法はないかと思います。

福富 今年の秋に行った善師野の観察会では、去年2回やった同じ場所ということで、下見に出なくとも行えると思われた方がおられるようで、指導のポイントが充分伝わらず、班ごとにバラバラな指導となってしまいました。来年も同じ場所で行うことになると思いますが、マンネリ化しないために、何か良い方法がないかと迷っています。



水鳥 協議会の行う観察会は、各地で今まで行われてきたものとは違って、自然全体を見て、そのしくみを学ぼうとしているなァ、そういう会があるということは感じていただいたようですが、まだ自然を広くみるということは不十分だと思われます。

中西 今までバラバラだった人達が集ったということ、意志の疏通ができるようになったということは評価できるでしょう。

木村 観察会には山草会の人達も来るんですね。私達は分類は素人同然で、しくみを主にやっているんですが、名前なんかは山草屋の方がよく知っている訳です。それで観察会は親子で来ていただいた方がいいんじゃないかと思うんです。また、自然だけでなく、民俗的なものもとり入れて、民具などを集めて山村の人達の生活を知ってもらうようなことも奥三河では必要だと思います。

鈴木 今後は、地域に合った規模の小さい観察会にも取り組んでいただくことも必要だと思うんです。そのためには指導員の姿勢もう少し厳しいものにするー自分も含めてのことですがーそういうことを常に思うんです。我々は毎日が勉強だという気持は絶対に忘れて欲しくないことと、レベルアップするために質のよい指導者に接する機会も設けていただきたい。また、どんな会を催しても参加者が少ないことも残念で、何とか大勢来ていただきたい、その中で指導

員の質の向上を打ち出せたらと思います。

木村 支部同士の交流をやってもいいんじゃないですか。

鈴木 前に静岡県の西部支部と合同で勉強会をしたけれど、そうするとやはり愛知県でやっていることと一寸違いがあり、良い面は吸収できるので、同じ様に近い支部同士が交流すればお互いに得ることがあると思われます。ただ、自分の支部の行事が忙しくて、他の支部の行事に参加できにくくこともありますので、始めから計画に入れないといけないでしょう。

指導員の質の向上と下見

— 指導員の質の向上について何か良い方法はありませんか。

中西 それぞれの会の中でそういうことを意識することじゃないですか。先程福富さんが言われたように、同じ所で観察会を行うと下見が難くなるというのではなく、同じ所なら前より良くしていこう、またテキストにしても前と同じものをそのまま使うのではなく、前の経験を生かして改良していこうという気持がないといけないでしょう。



マンネリ化は、どこの会でもそうだけど、何とかして上に行こう上に行こうという気持が少なくなるために起ると思う。そういうことを防ぐためには、観察会の度に観察技術などの目標を設定して、それをクリヤーしようとする努力が必要になってくるし、そのために下見をできるだけ行うことも必要でしょう。

木村 できるだけ下見は多くやった方がよいですね。見落したりすることもあるしね。

中西 ただし、下見は自然の内容を調べてこちら側が余裕をもつことのためだけではなく、指導方法としての発問の仕方、ポイントの示し方なども同時に考えなくてはいけないという気がします。

福富 なるべくいろんな人に、いろんな役をしてもらうことを考えているのですが、役をおりて熱心に参加してくださる人も多いですが、役

でない時は、そんなに手伝えないということもあるって、指導する人がいつも特定の人になってしまいます。

水鳥 西三河支部の場合も、総会などの行事では十数人のメンバーが参加してくれるが、1度も来ない方も多く、何とか新しい人が来ないかなあと思っている。指導員の質の向上よりも、会員になるべく参加してもらうことでアップアップしている状態です。

福富 観察会の当日は割合たくさん会員が来ていただけますが、下見の時は5~6人のことが多いのです。そうすると当日は、来た人にやれることをやってもらうという形になってしまい、下見で検討したことが十分生かせないことになります。

犬山は、地域内では片寄った場所になるので、何回も来にくいということもあるかもしれません。少しずつ場所を変えて行う必要もあるかとも思います。

木村 観察会の場所によっては出にくい人がどうしてもできるので、それをどうしたらよいかは悩みの種ですね。

鈴木 下見に対する取り組みは、どうしても他の行事と比べると落ちるようです。出でもらうように働きかけがうまくいけばいいですが、あまり無理をしてもいいないのではないかという気もするし、むつかしい問題です。



採集することについて

木村 採集をしてはいけないというだけではまずいと思います。探ってはいけないとする時もあっていいでしょうが、子供が多い時などは、虫を探ってグループで観察するようなことも大切です。鳳来寺山の博物館へ遠足に来た子供達を、山へ連れていって、植物などを採らせて、博物館にあるものと比べて同定させることもやっています。それで、ボクは一生懸命やってよかつたなァとはめてやるんです。また、クイズを出して、当てた子供には落葉のしおりなどをやったりすることもいいんじゃないかと思います。

水鳥 西三河では、フィルムルクスと台紙を配って、落葉をとって標本にすることもしました。例えばハウチワカエデとイロハカエデを比べてみようなどということをするのも一つの方法だと思います。

木村 私も観察会ではやってませんが、博物館や桜渕などへ遠足に来た子供をつかまえて、フィルムルクスの標本を配ったりしています。

鈴木 いくら位かかるのですか。

水鳥 1巻き幅が30cm位、長さが20cm位のロールになったものが5~6,000円、台紙が3,000円位でしょうか。

採集については、西三河ではどんぐり集めと落葉捨いなどもやってます。それに、私の指導したグループでは、モミとツガの違いをみるため、小枝をとったようなこともあります。

鈴木 わざかであれば、葉の多いもの、たくさん生えているものなら、後でそれが生かせるという効果の方が大きければいいでしょう。いくら立派な図鑑でも実物にはかなわないんですね。

中西 しかし、採集についてはきちんとおさえておかないと、何の為の観察会かわからなくなり、協議会の基盤もなくなってしまうおそれがある。

僕らは、どうしても種類中心の見方が身についてしまっているので、そうではない見方を開発して、自然をトータルに見る訓練をしていかなければいけないんじゃないかという気がする。例えば、アベマキという木がどうしてここに生えているのか、どんな生活をしているのか、人間とどういう係わりをもっているのかというように、つながりを見るとかしくみを見ることが必要で、分解していくような見方でないようしたい。こういうことをやり始めたのは、たかが4~5年のことで、ずっと前からクヌギだアベマキだという見方をしていたので、それが癖になってしまっている。ですから、資質の向上についても、今までの自分の興味を深めることの他に、見方の転換をすることが必要になってきている気がしますね。

鈴木 一般の参加する人も、名前をまず聞き、それが解けばいいという傾向があるが、そこで見方の転換をさせることはむつかしい。

中西 名前を聞くという要求にすぐに応じてしまうかどうか。

鈴木 そこで生半可な知識をもっているために応じ易いね。

中西 名前に固執するのはお年寄りに多く、名前とか、何の役に立つというような説明を聞いてよしとしてしまい、別の見方を説明しても応じてこない。だから、子供に対しては新しい自然の見方を伝えたいし、そうするのは僕らしかないともいえる。

水鳥 カタクリの花が咲くまでに5～6年かかるのですね。観察はその日限りなのだけど、カタクリが咲くまでにどんな年月を経ているか、それとカタクリのためには飯盛山がどんな状況であることが必要かを、観察者と共に学ぶようなことをやっていかなければと思うんです。

福富 犬山にヒツバタゴの自生地があり、木の回りを囲って保護してあるんですが、囲って中へ入れなくするだけの保護だけでよいかという話題を出して参加者に考えてもらったことがあります。効果があったかどうか自信がないんですが。

テキストと指導方法

——テキストの作り方、利用については皆さんはどうのようにお考えでしょうか。

鈴木 テキストは補助的には見ても、なかなか活用されないようです。ひとつには、下見の時から参加して、テキストの案づくりや指導方法の検討に加わっていないと、テキストにそってできることになるのでは

水鳥 テキストを見ながら、自然を見ながらというのはなかなかむつかしいこととして、むしろ实物を中心にして、3～4時間位の間は活字から離れて、自然そのものを見て、気のついたことをノートしていく程度でよいと思う。テキストは、家に帰って復習するときの役に立てばよいのではないかですか。

中西 観察技術の中には、テキストの作り方や使い方も含まれているはずで、テキストの使い方も問題にする必要があるのですね。

木村 スケッチをするのもいいじゃないですか。植物だけでなく、風景のスケッチでもいいです

よ。観察したことなども書き込んだりしてね。

水鳥 私達の観察会が一味違ったものとするためには、全体を見るということで風景のスケッチをするとか、参加者に何か作業をしてもらうことを定着すると良いですね。

中西 いろいろなことを試みれるようにしないと進歩がないですね。人が来るから格好をつけねばということで、どこも同じようになっていると思うんです。もっと、いろいろやっていいんじゃないですか。

木村 四季を通じて同じ所でやってみることも必要でしょう。

中西 河川をいろいろ見てみるというように、テーマを決めてやる方法もあるでしょう。

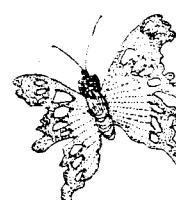
協議会の観察会としては、一つは何のためにやるかという考え方の問題、そして観察技術を開拓していくこと、後は指導員の資質の向上、それらがしっかりせんといけないのでないですか。特に、当面指導技術の研究に力を入れたい気がします。

鈴木 地域の人に参加してもらい、知名度はなくとも、身近かな場所での観察会を今後進めていきたい気がします。

——まだ話はつきないようですが、時間がまいりましたので、今日はこの位にしたいと思います。今後も、こうした機会を設けて、観察会とか、保護の問題について考えていきたいと考えております。ありがとうございました。

(参考) 自然観察会実施状況

	県委託	会主催	指導員 派遣	計
60年度	6	7	2	15
59〃	6	4	5	15
58〃	6	1	5	12
57〃	—	—	3	3



支部情報

1月26日 尾張支部総会

1月26日(日)に昭和60年度支部総会を開き、今年度の反省と次年度の活動計画の概要を決定しましたのでその一部について報告します。

定例観察会を特別な月を除き第4日曜日、犬山市善師野で「落葉の分解」をテーマに行ないます。また、この会に一般の方も参加されるよう広く呼びかけていくことも続けていくことを決めました。他支部の方も是非御参加下さい。（富山 茂）

1月26日 知多支部総会

今年度は何を実施してみたいですか？事前のアンケートを基に行なわれた1月26日、知多支部での総会。久しぶりに見る顔、初めて見る顔、総勢13名、前年度の反省をふまえながら次々と議題が進む中、メインテーマ行事計画決定のためにカレンダーとのにらめっこが始まる。やっぱり春は、野の草花をの声に福寿草も見たい、カタクリもみたいの希望が集中、きのこを見るには梅雨時が、の声に、いや今年は睦員がみたいと反対意見。個人の研究テーマの間をぬっての決定で、その熱心さには頭の下がる思いがする一幕も。夜の観察会ももうけ、星や虫についてやってみようという新しい試みも考案中。今年も知多支部、ガンバリます。（竹内秀代）

1月25, 26日 西三河支部総会

額田郡にある本宮山ロッジにおいて、本年度加入の4名を含む16名が参加し、行なわれました。昭和60年度の事業報告と会計報告後、昭和61年度の役員と事業計画を決めました。事業計画については、海に山に植物に動物にと、幅広く活動できるようにと話し合が行なわれ、2ヶ月に1～2回の割合で観察会を開くことになりました。本年度以上の活動ができると思います。今回問題になったことは、他支部でも同じではないかと思いますが、多くの指導員に参加してもらうにはどうすればよいか、それと観察会の資料作成の分担でした。

資料作成については観察会を開く地区に近い人が作成するという方向で決まりましたが、もう一つについてははっきりした結論がでませんでした。よい方法がありましたら教えて下さい。この総会は会員の顔を知り親睦を深めるよい機会となりました。（岡田慶範）

2月9日 名古屋支部総会

県産業貿易館で名古屋支部の総会が出席者11名で開かれました。（もっとたくさん来て欲しかった。）

61年度の事業計画と役員が次の通り決定しました。行事には、他支部の方も見に来て下さい。

・事業計画

自然観察会……東谷山（5月） 天白公園（10日） 庄内緑地公園（2月）

新企画ミニ観察会……八事興正寺で5月～3月の間、月1回第1日曜日を開かれます。

研修会……川の観察、土壤生物などの観察会が企画されています。その他、1泊予定の観察会も行う予定です。（日時・場所は後日検討）

例会……毎月開かれています例会が5月より第3水曜日に変更されました。

・支部役員

代表：塚本哲

幹事：石田肇、岩崎龍生、内田克幸、東義己、福西寿広

協議会委員：岩崎龍生、国枝利満、岩井隆史、福西寿広 （渡並喜一郎）

3月23日 鶴津砦自然観察会（名古屋支部）

60年度最後の自然観察会を、緑区の鶴津砦で行いました。しかし、当日は大雨注意報も出るというすばらしい天気で、一般参加者は3人という少なさ。「緑と歴史の散策」として新聞でもPRして、早春の自然を楽しんでもらおうと考えていたのに残念でした。

しかし、雨の中を来ていただいた3の方に敬意を表して、傘をさしながら予定の半分余のコースで観察しました。何回か行う観察会では、コンタクトもあるでしょう。（佐藤国彦）

ソウギョとトンボの出会い

(その結末は?)

鈴木友之(豊橋市)

市街地に在って、豊橋市民の憩いの場となっている「向山の大池」に繁茂するハスの撲滅を図るために、昭和59年に市がソウギョの稚魚の放流を基準していることを知った。早速、私は市の関係者にその内容を尋ねたことがあった。

永年、ハス退治に手を焼いていたのを知っていたので、その成果に興味をもっていた。放流後間もない59年の夏は、チョウトンボとベニイトトンボの姿が異常に少ないと確認したが、単にトンボ類の不作年とぐらいに思っていた。

昭和30年代頃の大池には、生活汚水の流入もあって、小さな生物の生息環境としては決して恵まれた状態とは言えなかった。昭和40年代に入ると周囲の様相は急速に変化を続け現在に至っている。

42年の市民文化会館の完成、49年には噴水が、52年には池を横断する遊歩道の完成へと進み、池の周囲は護岸され、汚水の流入は止り、都市公園としての整備はほぼ完了し、昔日の面影は見られなくなった。

こんな自然環境の変化にも逞しく適応して生き

抜いて来た水生昆虫等の世界にも、夢想だにしなかった悲劇が起きていることは、残念ながら否定出来ない。

昭和60年も梅雨の頃となった或る日、久し振りに大池を訪れ、しまったと声を上げた。ハスの葉が見当らないではないか。うかつにもソウギョが池に放たれていることを忘れかけていたのだ。

その日、6月15日からは仕事の間をみては大池通いがはじまった。

数年前までは、20余種類のトンボが生息しており、キトンボ、アオヤンマなど一部の種以外は、個体数も多く、イトトンボの仲間やシオヤトンボなどは、岸辺を歩くと体に触れることも多かった位である。

6月後半は7回池を訪れてトンボの姿を探したが10種が確認出来たのみで、個体数などは数年前の比ではなかった。その後も、ソウギョの様子を観察しながら、トンボの姿を求めて池巡りを続けた。6月22日及び24日はソウギョの観察に努めたためトンボ類の目撃調査はしていない。なお、池を一

種名	調査月日										計
	6/15	20	22	24	26	7/1	5	8/11	9/2		
シオヤトンボ	30	31			19	15	38	10	6	149	
コシアキトンボ	6	17			4	1	13	4		45	
シオカラトンボ	2	1					4	8	6	21	
ミヤマアカネ	2	3				1				6	
ウチワヤンマ	3	2			1		7	4	1	18	
オニヤンマ		2					3		3	8	
ギンヤンマ		1			1		2			4	
クロイトトンボ				5			1			6	
オオシオカラ			1							1	
ショウジョウトンボ			1							1	
計(10種)	43	57	2	5	25	17	68	26	16	259	

向山大池におけるトンボ類確認数(1985年)

巡して目撃した個体数であるので、見落した個体も少なくないと思われる。

〔ソウギョの様子〕

- ・調査が遅れたためハスを食べる様子は全く見ることが出来なかった、(6月中旬にはハスの葉は皆無に等しく、岸近くのヨシ群落内などのソウギョの近寄れない所に僅かに残るのみであった。)
- ・ソウギョの大きさは、約30~40cm程の個体が多く、中には50cmを越すものも僅かに見られた。
- ・ソウギョは死魚も多く、池を一巡すると、数匹以上見られ、10匹以上の日もあった、弱って死ぬ寸前の個体も目についた。
- ・6月24日の観察では、浅瀬に群生するヨシなどの葉を食べる様子を調べた。

ソウギョは背びれが水面に出るような岸辺のヨシ群落内に侵入して盛んに葉を食べる、水面より上にある葉を求めて、ヨシの茎を水面付近でかみ倒し、水面に倒れた茎に付く葉を食い千切って深みに姿を消す、こんな光景が随所で見られた。

ガマの群落は水面にあるが、ヨシ群落ほど縮少してはいないようだ。理由を考えてみた。

成長した茎は堅いためであろう。嫌いとは思えない。何故かと云うと、雨期の増水で岸辺に生えていたセイタカアワダチソウやタデが水中に没している所では、これら陸に生える草も食べるのを

見ている。ソウギョも水草類を食べ尽くして、食量難であろうことが判る。

盛夏の頃になると、流入水の無い池の水は、水草の繁っていた頃のような浄化もされず、太陽の直射で高温となり、水質の悪化は日増しに強くなっているようだ。それは、死魚が多くなることでもよく判る。ソウギョ、ヘラブナ、ライギョ、タウナギ、イシガメ等の死んでいるのを見ると、トンボの楽園でもあったこの大池も死んでしまったに思えてならない。

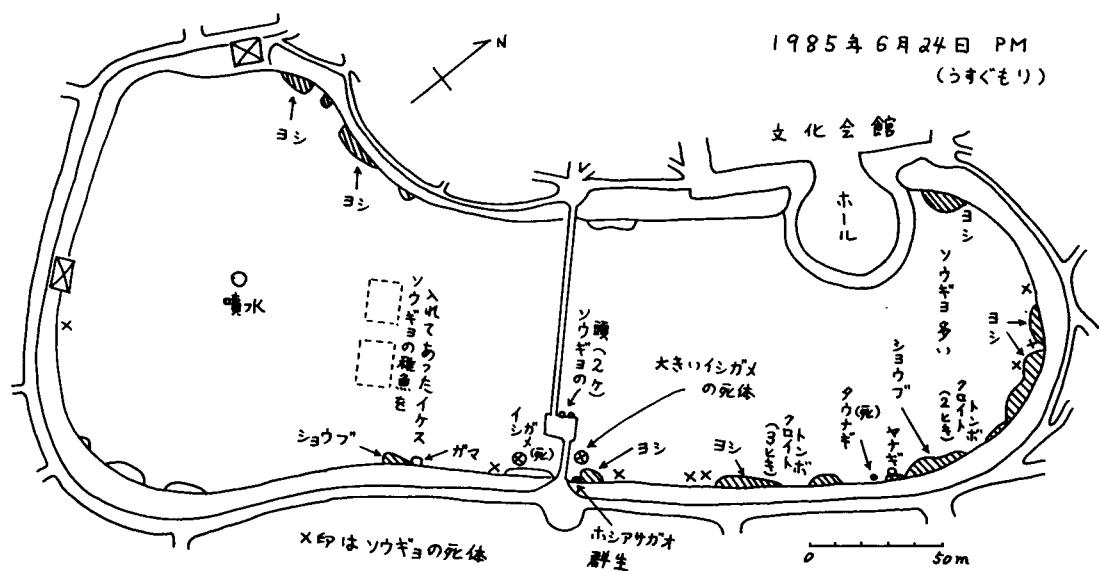
ソウギョの放流数5,000尾とはあまりにも多過ぎ、池では繁殖不能といわれるソウギョも衰れである。過密故に、自分の命すら絶つ結果にならうとは。

外観を知るのみの人達には、すっきりして見通しの良くなった池を眺めて、ソウギョの導入は大成功であったと論ずる人も少なくないようだ。

ソウギョの回収は考えていないと云う担当者の言葉、答えは今夏の大池が出てくれるだろう。

ライギョ、ブラックバスに加えてソウギョの出現は、外敵からは逃れても、水草の絶滅により住み家の無くなったトンボの幼虫達にとって悲惨な環境となつたことだろう。どこかで厳しい冬を越して、やがて成虫となって姿を見てくれるトンボが、1頭でも多いことを願つて止まない。

向山大池の調査結果



愛知県のブナ林

北岡明彦（瀬戸市）

昨年の6月9日、全国一斉ブナ林観察会の一環として、北設楽郡稻武町の面ノ木峠ブナ原生林で自然観察会が催されました。小雨が降ったり止んだりのあいにくの天気でしたが、多くの参加者があり、普段見られないブナ林の初夏の自然を観察しました。（本年も、6月1日に行います。）

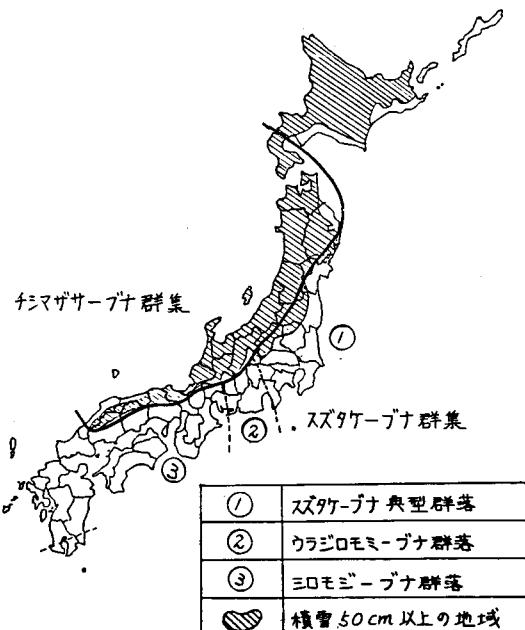
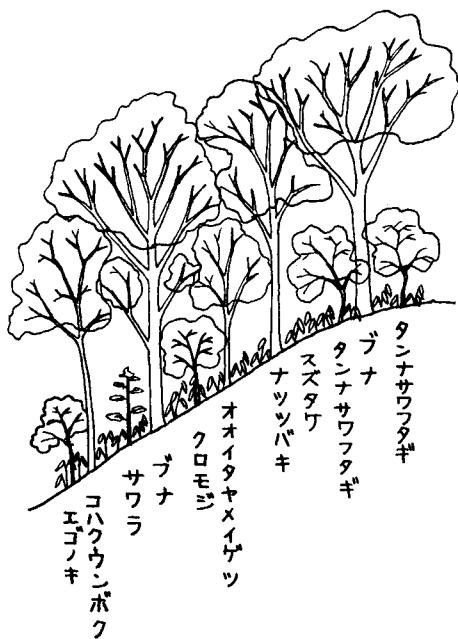
面ノ木峠のブナ林の面積は、わずか3.2haしか残っていません。白神山地や白山のものとは比べものにならない程小さなブナ林です。しかし、面ノ木峠のブナ林は、西日本の太平洋側にだけ遺存的に残されているブナ林としては大変貴重な森林です。

植物群落的には、太平洋側に広く分布するスズタケーブナ林（ブナ林床をスズタケが覆うのが最大の特徴）のうち、西日本の太平洋側にのみ分布するシロモジーブナ群落と呼ばれるものです。これは、低木層にコハウチワカエデ、クロモジ、タンナサワフタギと共に典型的なソハヤキ要素（九

州から東海地方にかけての太平洋側にのみ分布する植物群につけられた名称）であるシロモジが特徴的に見られるブナ林です。この群落は、いずれも1000mを越える山地帯にとびとびに残るだけで、面ノ木峠のブナ林は、その最も東に位置するものとして、植物学上大変貴重だといえましょう。

それに比べて、すぐ隣りの茶臼山には、ブナに加えてウラジロモミが多く見られるため、ウラジロモミーブナ群落と呼ばれる森林があります。この群落は、南アルプス南部山麓に多く、紀伊半島と四国にも離れて分布しています。

このように、わずか8km程しか離れていない2つのブナ林の性質が異っているのは、正に自然の妙といえましょう。しかし、面ノ木峠にもウラジロモミが存すると記された報告書もあります。私が確認したものはモミばかりですが、ウラジロモミのあることを御存知の方がありましたら御教示ください。



協議會行事報告

60. 12. 14 理事会

主な議題は、「61年度事業計画」で、総会へ提出する議案をまとめました。

60年度に県が行った自然観察指導員講習会は、協議会から講師を派遣しましたが、61年度は協議会が主催して、内容も一部変更して行うことも検討しましたが、まだ時期尚早で従来通り行うことがよいだろうと決まりました。（次回は、62年度に県が実施予定）

協議会としての調査は、一部の人にアンケートを行った結果、自然観察コース設定調査を行うこととし、具体的には委員会で61年度中に検討を行うことになりました。

その他、副会長に事業分担を定めることにし、竹内さんが自然観察会・研修会、中西さんが調査
・機関紙等となりました。

61. 2. 23 線会（於名古屋市教育館）

出席者40名。議題は、昭和61年度事業計画及び昭和61年度収支予算で、両議案とも可決されました。

県内 の た め 池 数

県内のため池数については、協議会ニュース13号で調査しましたが、その後さらに検討した結果、下の図表に示すように訂正しますのでお知らせし

3	129	71						
17	3	56	126	30	9	9	0	
32	8	18	124	61	2	0	2	4
59	36	43	277	111	3	1	2	0
0	146	132	50	3	0	0	2	0
100	319	7	83	0	4	12	0	
104	137	12	126	44	40	18	0	
39	159	29	48	38	45			
5	92		4	88	161			
		23	85	54				

(1 まずは 25,000 分の 1)
地図の大きさ

メッシュ別ため池数

61. 2. 23 編集委員会

61年度は、年4回発行で、原則として16ページに増やし、内容についても協議会の行事に関する情報や自然観察に関する記事を多くすることとしました。機関紙の中心は、郷土の自然コーナーで、

毛湿原、都市近郊の自然、矢作川、座談会の順に採り上げることとなりました。

61. 3. 29 企画運営委員会

委員長は国枝さん、副委員長は斎竹さんに決まりました。自然観察会については、今年度は、指導者の資質の向上に力を入れ、そのために下見は2回以上行い、テキストの充実を考えることを目標に実施することになりました。会員の御協力をお願いします。研修会については、それぞれ担当を決めて計画することになり、「学校教育における自然観察」の研究会も2回(夏頃)行うこととしました。

その他の委員会

セミ調査委員会 1. 15

自然觀察の手引作成委員会 12. 28. 1. 26

地域	総数	1ha 以下	1ha～ 5ha	5ha～ 10ha	10ha 以上
尾張西	75	72	3	—	—
尾張北	271	213	51	5	2
尾張東	323	267	44	9	3
名古屋	178	141	30	5	2
知多	1046	831	200	13	2
西三北	276	245	29	—	2
西三南	403	333	62	6	2
奥三河	59	53	6	—	—
東三河	366	305	52	8	1
渥美	195	165	20	8	2
計	3192	2625	497	54	16

地域別在勤地数

行事案内

期日	主 催	内 容
5.25	知多支部	自然観察会(野間海岸)
(日)	野間大坊	9:30(終了14:30)
5.25	尾張支部	自然観察会(犬山市内)
(日)	主催:犬山市	
5.25	西三河支部	観察会(子どもの国)
(日)	子どもの国入口	10:00
6.1	協議会	自然観察会(面ノ木峠)
(日)	面ノ木峠駐車場	10:00
6.1	名古屋支部	自然観察会(興正寺)
(日)	八事興正寺児童公園	9:30
6.13	知多支部	例会(土壤生物)
(金)	阿久比町中央公民館	18:00
6.18	名古屋支部	例会(環境アセスメント)
(水)	名古屋市教育館(栄)	18:30
6.22	知多支部	研修会(キノコの観察)
(日)	東海市農業センター	8:30
6.29	協議会	総会・研修会
(日)	(未定)	
6.29	東三河支部	自然観察会(豊橋公園)
(日)	豊橋市美術博物館前	10:00

お知らせ

○ 面ノ木峠自然観察会

昨年に引き続いて、全国一斉ブナ林自然観察会の1つとして、面ノ木峠で自然観察会を行います。今年は、やや中級者向けの内容で、協議会の研修会的に行いますので、是非御参加ください。指導者は、大竹勝、北岡明彦等です。

集合は、面ノ木峠駐車場へ10時。終了は15時の予定。交通は自家用車のみ。雨天決行。昼食持参。服装は山道を歩けるようなもの。問い合わせ先は、佐藤国彦(05617-3-5674)

○ 総会

6月29日に、総会及び研修会を行います。場所、内容は、6月中旬頃に御連絡することになりますので、とりあえず皆様の行事予定に予約して下さるようお願いします。

○ 指導員資格の更新について

57年に自然観察指導員講習会(愛知県では、足

助町いの村で実施)を受講された方は、今年の3月に指導員資格の更新手続を行うこととなっています。まだ、手続を行っていない方は、至急日本自然保護協会へ書類等をお送りください。書類は、事務局(県自然保護課保全担当村田)にもあります。なお、指導員資格を失った方は、当協議会規約により自動的に脱退したことになりますので、協議会会員の継続を希望する場合は、事務局へ御連絡ください。

会員移動

(脱退) 本田 優(東三河支部)

藤原仲雄(奥三河支部)

高橋三月(知多支部)…日本自然保護協会へ勤務

〔編集後記〕

3月に発行する予定の機関紙が、私の怠慢により2ヶ月も遅れてしまいました。お詫びいたします。次回は、6月に予定どおり発行するよう頑張っております。機関紙の体裁を変えて1年たちました。いかがでしょうか。御意見、投稿をお待ちしています。

(佐藤国彦)

目次

○〔解説〕 愛知県環境白書から……………	1
○〔座談会〕 自然観察会の進め方について……………	2
○支部情報……………	6
○〔観察と研究〕 ソウギョとトンボの出会い……………	8
○〔生物のくらしと分布ー4〕 愛知県のブナ林……………	9
○協議会行事報告……………	10
○県内のため池数……………	10
○行事案内、お知らせ、会員移動……………	11
表紙絵:辻 伸夫(安城市)	

編集事務局:名古屋市名東区香南1の101
県営住宅 7-511(渡並喜一郎)